

## ウェルカム横浜花壇

【講習開催日】令和 5 年 12 月 10 日

【場所】開港広場公園（中区）

### 【現在の花壇の問題点】

- ・愛護会の活動が月 1 回で参加人数も比較的少人数であるため、管理作業にあまり時間がとれない。
- ・植栽箇所がほぼ高木の根元付近にあるため木陰になる。また高木の根張りが強く、地被の有効土壌の確保が難しい。
- ・赤土の土壌である為、全体的に植物が痩せている。
- ・つる性植物が多いため地被を覆ってしまい、他の植物の成長を阻害している。
- ・猛暑の影響で表土の乾燥が著しい。

### 【問題点の解決方法】

- ・制限ある活動時間で管理できるよう、なるべくローメンテナンスな植物を選択する。
- ・今後、花壇管理が持続可能な環境作りを目指して土壌改良を施す。
- ・高木の細根類は現状では防ぐ事が出来ないため低木類を含め、定期的な植替え・土壌改良を部分ごとに繰り返し、花壇自体の若返りを図る。
- ・既存の生育している植物を参考にし、少しずつアレンジを加えていく。
- ・表土の乾燥を抑えるため、マルチング処理をする。

### 【植物を選ぶポイント】

- ・大さん橋からの玄関口である為、なるべく色華やかなイメージの品種を取り入れる。
- ・カラーリーフ・グラス類、こぼれ種で楽しめる花、球根類、花木等手間がかからない植物を選択する。
- ・乾燥・日陰に強い植物を選択する。
- ・季節感を出すため花壇手前に背が高くない球根を数種類植える。

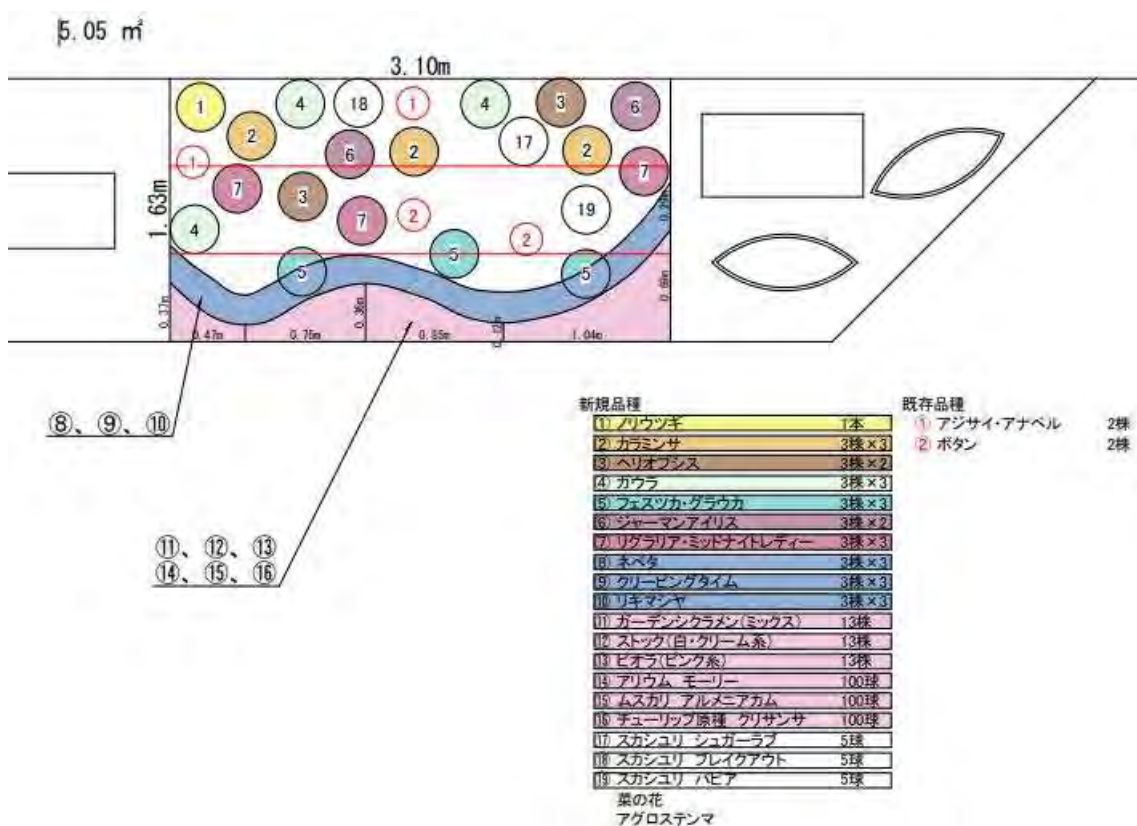
(春・夏・秋・にそれぞれ開花する物)

- ・シンボルとなる植物を1か所配置し季節感を楽しめるようにする。
- ・奥にはスカシ系のユリを植え高低差を演出する。
- ・既存の植物を活用しつつ華やかさを演出する。

### 【植物の植え方】

- ・ポットを外した際に根が回りすぎている場合は根の1/3下方部分をほぐしてから植え付ける。
- ・植物の成長後イメージしながら植え付ける間隔を決める。
- ・フォーカルポイントを見極め花が正面を向くよう植え付ける。また高低差がある場合は花同士が被らないよう配置する。
- ・混植するのではなく、管理がしやすいようにブース毎に品種類を限定して植栽する。

### 【今回のイメージ】



#### 宿根・常緑・グランドカバー

表土を覆ってくれるのに役立つ植物たちです。主にほふく性のものや、葉を大きく広げて覆ってくれるもの、壁から垂れ下がるものがあります。今回は、ほふく性のものを数種ランダムに植込み、葉色の違いや花を楽しみたいと思います。

#### 宿根・常緑・立性

花や葉の色合わせや異なる形を組み合わせ、高低差をアクセントに加えるなど、色や形・草姿を考慮して植え付けます。管理がしやすいように、ある程度ブロック毎に同種類をまとめて植栽します。1年を通じ花のない季節も葉色のコントラストを楽しめる植物を数種、配置します。

#### 1年草・冬咲

こちらも花や葉の色合わせや異なる形を組み合わせ、高低差をアクセントに加えるなど、色や形、草姿を考慮してランダムに植え付けます。およそゴールデンウイーク前まで楽しみ、初夏から秋に咲く1年草類に植え替えていきます。あくまで宿根草類が繁茂するまでのつなぎとして考えてください。

#### 球根類

早春から初夏まで楽しめるように、数種類を組み合わせで植え付けます。開花時の背丈や色合いをイメージしつつグランドカバーや1年草を一部取り入れると動きのある花壇になります。基本的に植えっぱなしで構いませんが、地上部が枯れたらその部分だけを切除します。

#### 1年草種子

宿根草の空きスペースに密にならないように播種していきます。開花後は一部を残して刈り取りますが、こぼれ種を期待して数本は枯れるまで放置します。今回は秋播き種子を使用しますが、コスモス、コキア等春播き種子を追加しても面白いです。



### 1、講座前

アナベル、ボタンをはじめ数種類の草花が植栽されている花壇です。

植えてから数年経っている様子ですが、生育状況が良くありません。

既存の植物を活用しつつ、花壇の問題点を改善したいと思います。



### 2、事前調査

この公園は大さん橋からの玄関口に位置します。

客船でいらした皆さんをお花でおもてなし出来るように、四季折々のお花が咲く花壇にしていきたいと思えます。



### 3、講習前の花壇

講習前に既存草花を掘り取りし、耕耘しました。

生育不良の原因は、高木とツタ類の根が花壇全体に張って、ほかの植物の根の伸長を阻害していることにあるようでした。

また木陰で夜露があたらず、土壌が乾燥しています。



#### 4. 花壇の現状確認

以上の状況を踏まえつつ花壇の現状を確認していきます。

主なポイントとして5つ

①花壇正面の方角

②陽当りと降水

③風通し

④土壌の状態

⑤管理頻度



#### 4. 花壇の現状確認

東向きで冬場でしたが、13時位まで日が差し込む環境です。夏場は葉が茂り木陰になるので、半日陰で育成可能な植物を選びます。

風通しは問題ありませんが、その分土壌は乾燥しやすいです。



#### 4. 花壇の現状確認

酸度計は乾燥していると正確に測れません。事前調査の際に湿らせて計測した所、ほぼ中性で良好でした。講習当日も弱アルカリ性を示しており、PHの状況は良好です。



## 5. 土壌改良材の説明

今回も赤土系土壌で改良の形跡が無いので、基本的な改良材をベースに作業します。

弱アルカリ性を維持しながら、より柔らかい土にするためピートモスを多めに使用します。



## 5. 土壌改良材の説明

弱アルカリ性が維持されている状況は、雨等によるアルカリ分の流出が少ないと考えられます。

パーライトやパーミキュライトで土の保水性を改善したいと思います。

面積5㎡、深さ20cm 約1000Lの土量に対し3割(約300L)改良材を加えます。



## 6. 土壌改良材の投入

まずは比重の重い石灰、化成肥料、パーク堆肥を混ぜ込みます。

なるべくムラにならないよう均一に撒布します。

比重の軽いものを一緒に混ぜると土の中で上下でムラになるので注意しましょう。



## 6. 土壌改良材の投入

みなさんで堆肥と肥料を散布して頂  
きました。



## 7. 攪拌作業

鋤ぐわを使って混ぜていきます。

くわの重みで土をひっくり返してい  
きます。

力任せに扱うと鍬がよれてはじかれ  
ます。

慣れてくるとお子さんでも扱えるよ  
うになりました。



## 7. 攪拌作業

土と土の間に入れ込むイメージで

ザクザクと攪拌してゆきます。

攪拌最中にドクダミ、ヤブガラシな  
どの雑草の根を見つけることがあり  
ます。

丁寧に除去しましょう。



## 8. 土壌改良材の投入2

次に比重の軽いバーミキュライト、パーライト、燻炭、ピートモスを投入していきます。

皆さん、量の多さにびっくりされます。

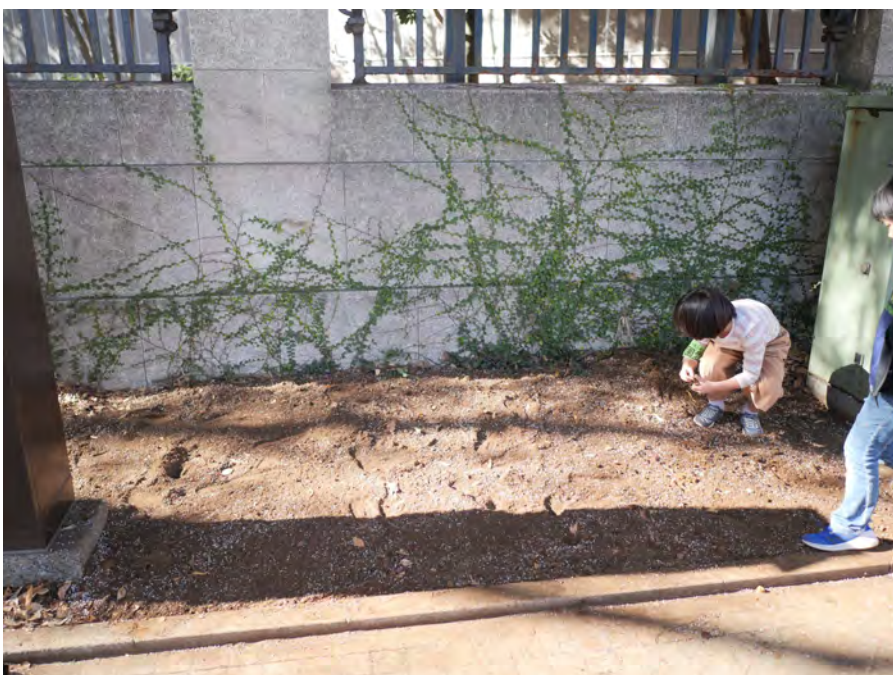


## 9. 攪拌作業2

こちらも丁寧に混ぜていきます。

比重が軽い分、なかなか下まで混ぜりません。

底の土をひっくり返すイメージで根気よく攪拌してゆきます。



## 10. 土壌改良が完了

あふれていた改良材が土とうまく馴染みました。

水が溜まらないよう、奥側に土壌を寄せて高くすることで、勾配を付けて地型を形成します。





### 11. 今回使用した植物

高低差や葉色を楽しめる宿根草類をメインに、ユリや原種系チューリップ、菜の花などの種と、ピオラなどの1年草を使用しました。



### 12. 植物の説明

各植物の生育サイクルと特徴を説明しました。

花の咲く時期、期間、草丈など様々ですが、1年間管理していくと管理の年間サイクルが掴めます。

種類が多いですが管理も楽しみの一つです。



### 13. 植付のポイント

植物によっては深植えを嫌うものがあります。シクラメンやジャーマンアイリスは、根部が半分出るくらい高植えします。

球根も種類によって植付深さが異なりますので、注意が必要です。



#### 14. 植物管理の説明

写真はシクラメンですが、花がらの取り方をレクチャーしました。

特に1年草類は、種を付けると花付きが悪くなるので摘み取りましょう。



#### 15. 植物の植付1

まずは花壇の奥の部分から植え付けます。背が高くなる植物が多いので、成長後の高さをイメージして植え付けます。

掘り取りした既存のアナベルとボタンもこの区域に植え付けました。



#### 16. 植物の植付2

中央部分にはネベタやタイム、グラス類を植え付けます。

今回は曲線ラインを出して、花壇に動きがあるようにデザインしました。



### 17. 植物の植付3

今回は種から育てる部分を設けました。菜の花とアグロステンマです。春先、宿根草類が咲くまでの寂しい時期を華やかにしてくれます。こぼれ種から来春も咲きますので、楽しみです。



### 18. 植物の植付4

中央部分の地被類の間にアリウムとチューリップを植え付けました。奥側にはスカシユリ、一番手前にはムスカリと、早春から初夏まで楽しめます。これらは植えっぱなしで毎年楽しめます。



### 19. 植物の植付5

手前部分は、季節ごとに植え替えて花を楽しめるようにします。今回はストック、ビオラ、ガーデンシクラメンを植え付けました。夏には日陰に強いインパチェンスなどを植えると華やかです。



## 20. マルチング

仕上げにマルチングです。

残った堆肥を敷き込み、表土の乾燥と雑草の発生を抑えます。

約3cmの厚みでマルチングします。



## 21. 灌水作業

大変な作業ですが、植付時の灌水はたっぷりとあげることが重要なので皆さん総出で行いました。



## 完成しました

見事な花壇の完成です。

末永くお花を楽しんでください。



### はまっ子ユークキ

横浜市内の公園緑地や街路樹などの剪定枝や刈草を原料で出来た堆肥です。

土の微生物が活発になり、土がふかふかになります。

また今回はマルチングにも使用しました。



### バーミキュライト

主に砂質土の改良に使います。

苦土蛭石を焼いた物で隙間や穴がたくさん空いています。

土の中に酸素が行き渡るため、根っこにも酸素を届けられます。



### パールライト

主に粘土質の改良に使います。

真珠岩を焼いた物で軽く多孔質でやわらかな質感の改良材です。

水もちに優れており、乾燥しやすい土壌に有効です。



### ピートモス

腐植化した泥炭（でいたん）を脱水、粉碎、選別したものです。

腐葉土によく似た性質を持ち、保肥性が高く有機物の分解を促進します。

しかし酸性なので石灰を加えて中性にしたり、アルカリ性のpH値を下げるために使用します。



### 燻炭

pHが8-10のアルカリ性で水はけや通気性、保肥性がよくなります。

連作障害を防止してアブラムシ、ネキリムシの忌避効果もある万能改良材です。



### 有機石灰

牡蠣やホタテの貝殻、卵の殻などを原料にしたアルカリ性の改良材です。

土が酸性に傾いている時だけ少しずつ溶け、中性の場合にはほとんど溶けません。

混ぜ込んですぐ定植できるのが利点です。



化成肥料

今回は基肥でマグアンプKを使用しました。

リンサンが強く、花付きや実成が良くなります。また根から出る酸に反応するので効果が長続きするのが特徴です。

今回使用量

はまっ子ユーキ18L 14袋

バーミキュライト30L 3袋

パーライト10L 10袋

燐炭12L 2袋

有機石灰10k.g 1袋

化成肥料1.3k.g 1袋

ピートモス18L 5袋



## ノリウツギ

落葉中木

開花期は夏～秋になります。

お花の少ない夏の時期を賑わせてくれるアジサイの仲間です。

円錐状の花形が特徴的。

新枝咲きなので2月までに剪定をすると開花します。



## ジャーマンアイリス

耐寒性球根

5月から6月にかけて開花します。

日当たりと水はけのよいことが特に重要です。

乾きやすいところに浅く植えるのがポイントです。



## ガウラ

常緑性多年草

草丈は50-80cm位で蝶が飛んでいるように咲く可愛い花です。

花期も5月-11月と長く、非常に丈夫です。根が張ればかなりの乾燥にも

耐え、大きく茂りやすいので、かえって乾燥しやすいやせ地のほうが

バランスよく育ちます。





## リグラリア

宿根草

日向から半日陰の場所で育てます。

肥沃で保水性のある土が好みで木陰のグランドカバーに最適です。

6月から9月にかけて開花します。



## ミソハギ

多年草

水もちのよい泥質の土で育てますが草花の培養土でも問題なく育ちます。

茎の長さは1mを超す大型ですが葉張りは狭く、花壇にボリューム感を与えてくれます。

7月から9月にかけて開花します。



## カラミンサ

宿根草

草丈は50cm程度で、爽やかなミントの香りがあります。花期も5月-11月と長く、冬になると地上部を枯らします。

日なた、半日陰のいずれでもよく育ちますが、花つきが多く、締まった株に育てるには日なたで育てます。



## ヘリオプシス

多年草

日当たりから明るい半日陰まで幅広く育成可能です。水はけをよくしておき、根をしっかりと張らせることが大切です。

開花期間も6月から10月ごろまで長く地中の株元に多数の芽ができてふえます。



## フェスツカ・グラウカ

常緑多年草

乾燥に強く、庭植えではほとんど水やりの必要はありません。

常緑性で、気温の下がる秋以降に本領を発揮し、冬花壇のアクセントに最適です。春の新芽は特に美しいです。



## ネペタ

多年草

キャットミントとも呼ばれ遠目にラベンダーに間違えられるくらい綺麗な花を咲かせます。

開花期間も4月から10月頃まで長く、丈夫で栽培しやすい品種です。梅雨期など雨が続くときに蒸れないように注意します。



## クリーピングタイム

常緑多年草

繁殖力旺盛で横にどんどん広がっていくため、グランドカバーとしてよく利用されています。

酸性土壌が苦手なので苦土石灰などで土を中和し、砂などを混ぜて土の水はけをよくします。



## リシマキア

常緑多年草

丘でも成長しますが水辺など湿り気のある場所に植えると繁茂します。

水はけが悪い部分のピンチヒッターとして重宝します。

葉色も鮮やかで花が無い時期には彩を与えてくれます。



## ストック

香り高い花をつける半耐寒性の一年草です。中性から弱アルカリ性を好み、日当たりと風通しのよい場所に植え付けます。

水の与えすぎによる過湿などで、立ち枯れ病が発生します。少し乾燥気味に育てましょう。



### ビオラ

日光を好むため、風通しと日当たり  
の良い場所で育てましょう。

水やりは午前中に行います。

晩に霜が降りるような気温になると、  
根が霜で損傷してしまう可能性があ  
るので注意しましょう。



### ガーデンシクラメン

寒さに弱いシクラメンの中から特に  
耐寒性の強い系統を選び、改良され  
たものがガーデンシクラメンです。

深植えは厳禁です。球根の2分の1を  
地面に植えるようにしてください。



### スカシユリ

間隔約15cm、深さ約7~10cm 庭植え  
の場合は、土壌を深さ30cm以上よく  
耕し、球根の高さの1.5~2倍の深さ  
に植えつけます。

初夏に開花し、翌年も球根が残り、  
開花します。



### ムスカリ

日当たりと水はけのよいところであれば、あまり場所を選りません。

植えばなしで毎年よく咲きます。

秋に葉が長く伸びますので、早春の時期に短く刈り込んでおくコンパクトに開花します。



### アリウム、チューリップ

アリウムの中では小型で草丈が低い品種。初夏に1本の茎から星形の黄色い小さな花をつけます。

このチューリップは花丈は25cm位で、球根は掘り取らずに夏を越せます。

開花後は花がらを摘み取り、茎葉は枯れるまでつけておきます。



### 1年草種子

#### 菜の花、アグロステンマ

秋、気温が23℃を下回ったら播種します。深さ1cmほど、筋播きか5cm間隔で坪播きします。

開花後は2~3株残し刈り取り、種をこぼします。